

日本語の受動文とベトナム語の“bị”受動文との対照

レー ビック ジエップ

キーワード：直接受動文、所有受動文、間接受動文、被害、対照

1. はじめに

ベトナム語の受動文について、多くの研究（村上 1997、谷守 1999、Diệp Quang Ban 2005）では以下のタイプを典型的な文型だと認めている。

- | | | | | | | |
|--------|---|-----------|---|----------------|---|----|
| 主語 | + | bị / được | + | 旧主語 | + | 動詞 |
| ↓ | | ↓ | | ↓ | | |
| (動作対象) | | (ラレル) | | (動作主 (能動文の主体)) | | |
- (1) Dững bị cô giáo mắng.
ズン PASS 先生 叱る
(ズンさんは先生に叱られた。)
- (2) Dững được cô giáo khen.
ズン PASS 先生 褒める
(ズンさんは先生に褒められた。)

(1) と (2) に現れる“bị / được”はベトナム語の受動文をマークするものであり、日本語の「られる」に対応するものとされている。“bị”は「被害」の意味を表し、“được”は「恩恵」「受益」の意味を持つと指摘されている。(1) (2) のような例文は日本語の直接受動文と近いタイプである。

本稿は“bị”受動文に焦点を絞って研究を行うが、まず、“bị”受動文は被害・迷惑を表すため、(3) のように「褒める」のような通常良い事態を表す動詞は成立しない。

(3) 私は母に褒められた。

*Tôi bị mẹ khen.

また、以下の日本語の所有受動文と間接受動文はベトナム語の“bị”受動文では成立する場合と成立しない場合がある。

- (4) 太郎は次郎にパソコンを壊された。 (所有受動文)
Taro bị Jiro làm hỏng máy tính.
太郎 PASS 次郎 壊す パソコン
- (5) 太郎は次郎に息子を殴られた。 (所有受動文)
*Taro bị Jiro đánh con trai.
太郎 PASS 次郎 殴る 息子
- (6) 太郎は隣の人に騒がれた。 (間接受動文)
Taro bị người ngồi cạnh gây ồn ào.
太郎 PASS 隣の人 騒ぐ
- (7) 太郎は次郎にカラオケを歌われた。 (間接受動文)

*Taro bi Jiro hát Karaoke.
 太郎 PASS 次郎 歌う カラオケ

このため、本稿では、ベトナム語の“bi”受動文がどのような場合に成り立つかを明らかにし、日本語の受動文と比較・対照し、共通点及び相違点を考察する。

2. 対照の前提

2.1 ベトナム語の特徴

日本語と違い、ベトナム語は中国語やタイ語などと共に、「孤立語」の類型に属している。その他、ベトナム語は西欧諸語のような男性、女性、中性の区別や、単数と複数など、また、動詞の時制を表す語尾変化などの現象はない。

文の構成について、語順は「主語＋動詞＋目的語」、SVOである。時間を表す副詞の位置は殆どの場合には文頭であり、修飾語は被修飾語の後ろにつける。また、動詞の時制と態を表す助動詞と形容詞を修飾する程度副詞は、動詞と形容詞の前に立つ。

(8) Sáng nay, đứa trẻ này đã ăn bữa sáng rất nhanh.
 今朝 この子 PRF 食べる 朝ごはん とても 速い
 日本語の直訳文：今朝この子はとても速く朝ごはんを食べた。

2.2 日本語受動文の分類の扱い方

日本語の受動文の分類に関しては、研究者によって様々な角度から研究がなされている。例えば、寺村（1982）は意味特徴と構文特徴の観点から日本語の受動文を直接受動文と間接受動文に分けた。益岡（1987, 1991）は受動文を「昇格受動文」と「降格受動文」に分類した。また、「昇格受動文」を更に「受影受動文」と「属性叙述受動文」の二つに分けた。

ここでは Kubo（1990）、日本語記述文法研究会編（2009）などが提示した直接受身文、間接受身文、所有受身文（持ち主受身文）の三分類を扱う。間接受動文と所有受動文を区別し、“bi”受動文と対照する理由は以下の通りである。

- 間接受動文は「被害」ないし「迷惑」の意味を伴うが、所有受動文は特に被害の意味を持たない場合がある。（奥津 1983）
 (9) 太郎は先生に成績を褒められた。
- “bi”受動文は常に「被害・迷惑」の意味を含んでいると指摘されているため、以下のような日本語の間接受動文と完全に対応するか否か、考察する必要がある。
 (10) 太郎は雨に降られた。（自動詞間接受動文）
 (11) 太郎は先生に校門を閉められた。（他動詞間接受動文）

以下の表のように、日本語の受動文をベトナム語の“bi”受動文の比較対象とする。

【表 1】日本語の受動文の分類

受動文	構造		例文
直接受動文	NP1 ガ NP2 ニ ル。	動作主がニを取 る場合	太郎は次郎に蹴られた。 この時計は太郎に壊された。

	NP1 ガ NP2 ニ／カラ ～ラレル。	動作主がニ／カ ラを取る場合	佐藤先生は学生に／から愛され ている。
	NP1 ガ NP2 ニヨッテ ～ラレル。	ニヨッテを取る 場合	『源氏物語』は紫式部によって 書かれた。
所有受動文	NP1 ガ NP2 ニ NP3 ヲ ～ラレル。	NP3 が NP1 の 所有物の場合	私は母にマンガを捨てられた。
		NP3 が NP1 の 身体部位の場合	私は隣の人に足を踏まれた。
		NP3 が NP1 の 親族関係の場合	私は先生に子供を叱られた。
間接受動文	NP1 ガ NP2 ニ ～ラレ ル。	自動詞の場合	太郎は雨に降られた。
		他動詞の場合	太郎は先生に校門を閉められ た。

3. 直接受動文

直接受動文とは対応する能動文が存在し、能動文に戻せるものである。受動文の主語はガ格で示し、能動文の目的語に対応する。一方、能動文の主語は受動文においてニ格、カラ格、ニヨッテで示す¹。以下では各パターンをニ受動文、カラ受動文、ニヨッテ受動文と呼ぶ。

- (12) a. 先生は太郎を呼んだ。
b. 太郎は先生に呼ばれた。
- (13) a. 部長は太郎に仕事を頼んだ。
b. 太郎は部長に／から仕事を頼まれた。
- (14) a. コロンブスはアメリカを発見した。
b. アメリカはコロンブスによって発見された。

では、“bị”受動文が成立するか否か、また成立する場合はどう表現されるか見てみる。先ず、次のようなニ受動文に対応し、“bị”受動文が成立する。

- (15) a. 私は母に叱られた。
b. Tôi bị mẹ mắng.
私 PASS 母 叱る
- (16) a. 犯人は警察に捕まえられた。
b. Thủ phạm bị cảnh sát bắt.
犯人 PASS 警察 捕まえる

一般的には、日本語の直接受動文の成立条件は対応する能動文が存在することであり、迷惑の意味を伴わないと言える。しかし、Howard and Niyekawa-Howard (1976) の指摘の通り、直接受動文でも対応する能動文には迷惑な意味がないのに、受動文にすると迷

¹ 能動主体のデ格もあるが、ここでは研究対象としない。
(i) 大半が推進派で占められた。(日本語記述文法研究会 2009)

惑の意味が生じることがあるという。これは動詞自体の意味により、(15) (16) において、「叱る」「捕まえる」のように受動主体の「私」「犯人」に好ましくないことが起こったわけである。この場合は、ベトナム語の“bị”受動文が成立する。

- (17) a. 彼は友達に助けられた。
 b. *Anh ấy bị bạn giúp.
 彼 PASS 友達 助ける
- (18) a. 太郎は先生に褒められた。
 b. *Taro bị thầy khen.
 太郎 PASS 先生 褒める
- (19) a. 先生は学生から尊敬されている。
 b. *Giáo viên bị học sinh kính trọng.
 先生 PASS 学生 尊敬する

以上の例文を観察すると、動詞の意味が“bị”受動文の成立に直接的に大きく関連することが分かる。“bị”受動文は常に動詞の意味によって迷惑・被害の意味が出るため、(17b) (18b) (19b) の“giúp” (助ける)、“khen” (褒める)、“kính trọng” (尊敬する) は受動主体への被害の意味を表さないため、“bị”受動文は不適格である²。

次に、以下の例文を考える。

- (20) a. 彼女はお姉さんに見られた。
 b. ?Cô ấy bị chị nhìn.
 彼女 PASS お姉さん 見る
- (21) a. 私は課長から仕事を委託された。
 b. ?Tôi bị trưởng phòng ủy thác công việc.
 私 PASS 課長 委託する 仕事
- (22) a. 彼女は皆から期待されている。
 b. ?Cô ấy bị mọi người kỳ vọng.
 彼女 PASS 皆 期待する

(20) ~ (22) の直接受動文は“bị”受動文で表すと、少し不自然になるのはなぜなのか。やはり動詞の語彙的意味は中立的であり、「被害」の意味が薄いと言って良いだろう。以下の文脈のように、「被害」の意味を明らかにすれば、許容度が高くなる。

- (20c) 私はお姉さんにじっと見られた。
 Tôi bị chị nhìn chăm chăm.
- (21c) 私は課長から複雑な仕事を委託され、毎日残業しなければならない。
 Tôi bị trưởng phòng ủy thác công việc phức tạp, ngày nào cũng phải làm thêm.
- (22c) 彼女は皆から期待され、ストレスが溜まっている。
 Cô ấy bị mọi người kỳ vọng, nên căng thẳng.

(20c) では「ちらりと見る」ではなく、じっと見られたことで話し手が困らせられることが明らかになると考える。(21c) (22c) もそれぞれ「私」「彼女」が直接対象とし

² この場合は、恩恵・受益を表す“được”受動文で表現する。

て心理的、物理的に影響を受け、良くない状況になったため、“bị”受動文が用いられる。つまり、“bị”受動文の成立は動詞の意味に関連するだけではなく、語用論的に語彙の付加又は文脈によって、受動主体が望ましくない影響を受けることである。“bị”受動文では主語に立つものが単に動作主の行為の対象になるのみならず、その行為・出来事のため必ず被害を受ける構文である。

ここで、松下（1930=1978）の議論にも触れておく。松下（1930=1978）は「利害の被動」と「単純の被動」を区別し、前者を「被動の主を一人格として取扱ひ其れが或るものゝ動作に由って利害を被る意を表す被動」、後者を「利害を被る意味その他特殊の意味のない被動」と述べている。「子供が犬に噛まれた」と「家毎に門松が立てられた」の違いに見られるように、「其の主が利害を受ける客体の観念」は利害の被動では明確であり、単純の被動では不明確である。この指摘はベトナム語の被害を表す“bị”受動文に適用し、(20c)～(22c)において「主が被害を受ける」という点に注目すべきである。

これまで有情物の受動主体を考察してきたが、以下は非情物の例文を見てみる。

- (23) a. この電話は太郎に壊された。
 b. Cái điện thoại này bị Taro làm hỏng.
 電話 この PASS 太郎 壊す
- (24) a. 設計図は住民に反対された。
 b. Bản thiết kế bị cư dân phản đối.
 設計図 PASS 住民 反対する
- (25) a. この町はテロリストに破壊された。
 b. Thị trấn này bị khủng bố tàn phá.
 町 この PASS テロリスト 破壊する

(23)～(25)はいずれも日本語もベトナム語の“bị”受動文も成り立つ。日本語の場合は、益岡（1991）の「潜在的受影者」に触れたい。「潜在的受影者」とは、受影受動文の表面には表れないけれども、その受動文が叙述している事象から何らかの影響を受ける存在のことである。

受動主体の「この電話」「設計図」「この町」は被害者と言えない。しかし、「潜在的受影者」が存在し、つまり、(23)の太郎が電話を壊す行為はその電話を使っている人に影響を与えることである。(24)の受影者は設計図を作成した建築家かつ設計図を提示した人であり、(25)では町の住民である。この説明はベトナム語にも当てはまる。非情物が受動主体であっても、潜在的受影者が存在することから、“bị”受動文が成り立つと言える。

最後に、ニョッテ受動文を考察する。

- (26) a. 修了書は担当者によって学生に送られた。
 b. *Giấy tốt nghiệp bị người phụ trách gửi đến sinh viên.
 修了書 PASS 担当者 送る に 学生
- (27) a. 『源氏物語』は紫式部によって書かれた。
 b. *Genjimonogatari bị Murasaki Shikibu viết.
 源氏物語 PASS 紫式部 書く
- (28) a. この町は日本軍によって建設された。

- b. *Thị trấn này bị quân đội Nhật xây dựng.
この町 PASS 日本軍 建設する

以上は「降格受動文」と呼ばれ、動作主が表層に現れる場合は、ニヨッテでマークされる（益岡 1987）。降格受動文は表現の主観性という観点から見ると、事象の生起を中立的な立場から客観的に表現した文であると述べている。ベトナム語も同様に、(26b)の「修了書が送られる」、(27b)の「『源氏物語』が書かれる」、(28b)の「この町が建設される」という出来事を中立的に述べ、客観的に表現された受動文のため、被害の意味が含まず“bị”受動文が不適格になるのである。

また、「書く」「作る」「建てる」の「創る」類の動詞は「その動作の結果、これまで存在しなかったものが出現する」（寺村 1982 : 223）ということで、受動主体が物理的・心理的影響を受けないため、“bị”受動文で表現できない。要するに、ニヨッテ受動文に対応する“bị”受動文が存在しないと結論できる。

4. 所有受動文

所有受動文の特徴は、主語と目的語の間に所有関係があり、能動文では、ノ格で示されることである。

- (29) a. 先生は太郎の成績を褒めた。
b. 太郎は先生に成績を褒められた。
(30) a. 太郎は次郎の頭を叩いた。
b. 次郎は太郎に頭を叩かれた。

それでは、以下の例文を考察する。(31)～(34)は目的語として具体的な所有物の名詞が来る。(35) (36)は抽象名詞である。

- (31) a. 太郎は先生に作文を褒められた。
b. *Taro bị thầy giáo khen bài văn.
太郎 PASS 先生 褒める 作文
(32) a. 太郎は次郎に携帯を壊された。
b. Taro bị Jiro làm hỏng điện thoại.
太郎 PASS 次郎 壊す 携帯
(33) a. 太郎は母にマンガを捨てられた。
b. Taro bị mẹ vứt truyện tranh.
太郎 PASS 母 捨てる マンガ
(34) a. 太郎は次郎にケーキを食べられた。
b. ?Taro bị Jiro ăn cái bánh ngọt.
太郎 PASS 次郎 食べる CL ケーキ
(35) a. 太郎は友達に努力をけなされた。
b. Taro bị bạn coi thường sự nỗ lực.
太郎 PASS 友達 けなす CL 努力
(36) a. 太郎は消防士に命を助けられた。
b. *Taro bị lính cứu hỏa cứu mạng.
太郎 PASS 消防士 助ける 命

先ずは(31b)と(36b)は日本語の直接受動文と“bị”受動文を考察する際述べたように、“khen” (褒める)、“cứu” (助ける)のような被害の意味が出にくい動詞であり、“bị”受動文が成り立たない。

次に、(32b)～(35b)では旧主語の行為が受動主体に悪い影響を与え、受動主体が被害を受ける意味で、“bị”受動文になり得る。所有物は“điện thoại” (携帯)、“truyện tranh” (マンガ)のような具体的な物でも“sự nỗ lực”「努力」のように抽象的なものでも使える。また、(33b)では、動詞自体が被害の意味を持たなくても、その行為全体として受動主体に被害・迷惑を引き起こせば、“bị”受動文が成立する。母に(大好きな)マンガを捨てられ、太郎にとっては残念であり、好ましくない気分になるわけである。(34b)は明確に被害の意味が出ないため、少し不自然であるが、言えないわけではない。もし以下のように状況を更に明確にすれば、“bị”受動文の容認度も高くなる。話し手や当事者が被害・迷惑を被っていることが推測されるからである(高見2011)。

- (35) c. 太郎は次郎に勝手にケーキを食べられた。
(Taro bị Jiro tự tiện ăn cái bánh ngọt.)
d. 太郎は次郎に朝ごはんのためのケーキを食べられた。
(Taro bị Jiro ăn cái bánh ngọt dành cho bữa sáng.)
e. 太郎は次郎にケーキを食べられてしまった。
(Taro bị Jiro ăn mất cái bánh ngọt.)

次の例文(37)(38)では身体部位の名詞である。

- (37) a. 太郎は次郎に足を踏まれた。
b. Taro bị Jiro dẫm vào chân.
太郎 PASS 次郎 踏む に 足
(38) a. 太郎は犬に手を噛まれた。
b. Taro bị chó cắn vào tay.
太郎 PASS 犬 噛む に 手

(37b)と(38b)は“bị”受動文で表現できる。体の部分が害され、受動主体も間違いなく被害・不利を受けるからである。因みに、日本語の場合は、「足」や「手」は動作の対象であるが、ベトナム語の場合は、これらは「踏む」「噛む」動作の着点と認められ、動作が「足」と「手」に向くため、方向を表す前置詞“vào”(二)の挿入が必須である。

最後に、(39)～(41)では目的語が親族関係である場合、日本語の受動文は成り立つが、ベトナム語の“bị”受動文は成り立たない。

- (39) a. 太郎は次郎に姉を嫌われている。
b. *Taro bị Jiro ghét chị gái.
太郎 PASS 次郎 嫌う 姉
(40) a. 太郎は次郎に息子を叱られた。
b. *Taro bị Jiro mắng con trai.
太郎 PASS 次郎 叱る 息子
(41) a. 太郎は次郎に息子を殴られた。
b. *Taro bị Jiro đánh con trai.
太郎 PASS 次郎 殴る 息子

成立しない理由は以下のように考えられる。

他の例文の目的語は物を取るのに対して、(39)～(41)の目的語は人である。動作が物である目的語に働きかけ、その物が「影響を受けた」とは認識できないため、その所有者が影響を受けることは当然であり、所有者が受動主体になり受動文が成立する。一方、人が目的語の場合は、ベトナム語ではその人が関係者ではなく、むしろその人が直接に影響を受け、受動主体になった方が自然であると考えられる。つまり、この場合の“bị”受動文は完全に直接受動文の構文を持ち、動作対象(太郎の姉、太郎の息子)が主語になるのである。以下のように、目的語がそのまま受動主語になった受動文が用いられる。

(39) c. 太郎の姉は次郎に嫌われている。

(Chị gái của Taro bị Jiro ghét.)

(40) c. 太郎の息子は次郎に叱られた。

(Con trai của Taro bị Jiro mắng.)

(41) c. 太郎の息子は次郎に殴られた。

(Con trai của Taro bị Jiro đánh.)

5. 間接受動文

間接受動文とは、対応する能動文が存在せず、主語となる格成分が1つ付け加えられ、その主語が何らかの被害を被ることを表す受動文であり、迷惑の受動文とも呼ばれる。自動詞からも他動詞からも間接受動文が成り立ち得る。

では、ベトナム語の常に被害の意味が出る“bị”受動文は日本語の間接受動文に対応するか否か、比較対照をする。

先ず、自然現象の2つの例文(42)(43)を見る。

(42) a. 私は雨に降られた。

b. Tôi bị trời mưa.

私 PASS 雨が降る

(43) a. 私は風に吹かれた。

b. *Tôi bị gió thổi.

私 PASS 風 吹く

寺村(1982)は(42)の「雨に降られる」のような間接受動文は例外として扱った。確かにベトナム語でもこのような言語の現象が珍しい。ただ、日常会話で一般によく使われている表現であり、「雨に降られ、良くない状態になる」というニュアンスが明らかであるため、固定化された表現だと考えられる。逆に、(43)ではいくら場面を想定しても被害の意味が出にくく、違和感を感じる。以下のように自然な文が作れるが、動詞も構造も変わるため、間接受動文でなく所有受動文として認める。

(43) c. Tôi bị gió thổi bay mũ.

私 PASS 風 吹き飛ばす 帽子

(私は風に帽子を吹き飛ばされた。)

次に、自動詞の間接受動文をしてみる。以下の例文では、“bị”受動文が成立する。

(44) a. 私は恋人に友人と結婚された。

- b. Tôi bị người yêu kết hôn với bạn thân.
私 PASS 恋人 結婚する と 友人
- (45) a. 彼は彼女に留学に行かれた。
b. Tôi bị bạn gái đi du học.
私 PASS 彼女 行く 留学
- (46) a. 私は近所の人に騒がれた。
b. Tôi bị hàng xóm gây ồn ào.
私 PASS 近所の人 騒ぐ

次に、他動詞の間接受動文に対しても“bị”受動文が成立する。

- (47) a. 私は隣の人にタバコを吸われた。
b. Tôi bị người bên cạnh hút thuốc lá.
私 PASS 隣の人 吸う タバコ
- (48) a. 私はうちの前に誰かに車を止められた。
b. Tôi bị ai đó đỗ xe trước nhà.
私 PASS 誰か 止める 車 前 うち

更に、三項動詞の間接受動文でも対応する“bị”受動文がある。

- (49) a. 太郎は次郎に田中に花子を紹介された。
b. Taro bị Jiro giới thiệu Hanako cho Tanaka.
太郎 PASS 次郎 紹介する 花子 に 田中
- (50) a. 太郎は次郎に花子にラブレターを送られた。
b. Taro bị Jiro gửi thư tình cho Hanako.
太郎 PASS 次郎 送る ラブレター に 花子

(44) ~ (50) はいずれも受動主体が関連する事柄から被害を被ると言える。例えば、(44b)では、恋人が友人と結婚するのは受動主体には全く望ましくないことであろう。(47b)も同様、隣の人がタバコを吸い、迷惑・被害を受けるのはいうまでもない。他の例文も同じような解釈であり、主体に被害の意が明確に感じられる場合は“bị”受動文が成り立つ。

しかし、“bị”受動文はどのような場合であっても完全に日本語の間接受動文に対応するわけではない。間接受動文と異なり、“bị”受動文では「被害」の意味を明らかに示すのは重要なことであり、受動主体が被害・迷惑を受けることを推測できる場面や文脈が求められる。例えば、以下の例文を(45)と比較してみる。

- (51) a. 彼は彼女に引っ越された。
b. ?Tôi bị bạn gái chuyển nhà.
私 PASS 彼女 引っ越す
- (52) a. 彼は好きな人に転校された。
b. ?Tôi bị người mình thích chuyển trường.
私 PASS 好きな人 転校する

いずれも間接受動文が成立するが、“bị”受動文の場合は(45b)が最も自然である。“du học”（留学する）には「外国へ行く」という含意があり、「彼女が留学のため外国に行き、

これから会うのは難しい」という解釈になるからである。つまり、受動主体が被害を受ける意味が明確である。

一方、(51b) の“chuyển nhà”「引っ越す」、(52b) の“chuyển trường”「転校する」は「どこまでか」の情報が重要であり、距離によって受動主体がどのぐらい影響を受けるのか判断できる。しかし、その情報が足りないため、確かに受動主体が被害を被るが、その被害の感覚が薄い。

以下のように、情報を加えるなら、“bị”受動文が自然になる。

(51) c. Tôi bị bạn gái chuyển nhà **lên thành phố**.

(私は彼女に**都会**へ引っ越された。)

(52) c. Tôi bị người mình thích chuyển **đến một trường ở xa**.

(私は好きな人に**遠くの学校**へ転校された。)

高見 (2011) は、受動文を用いる意味機能として、「被害や迷惑の表明」があると述べている。以上の例文では、被害の意味を明らかにした結果、“bị”受動文が成立する。では、他に不自然な“bị”受動文はどのような条件を満たすなら成り立ち得るか、考察する。

① 受動主体と旧主語の関係

(53) a. 私は妹に泣かれた。

b. ??Tôi bị em gái khóc.

私 PASS 妹 泣く

(54) a. 私は友達にうちに来られた。

b. *Tôi bị bạn đến nhà.

私 PASS 友達 来る うち

(55) a. 私は弟にカラオケを歌われた。

b. *Tôi bị em trai hát karaoke.

私 PASS 弟 歌う カラオケ

(53b) ~ (55b) の「妹」「友達」「弟」の代わりに「恋人」「警察官」「近所の人」で置き換える。

(53) c. Tôi bị người yêu khóc.

(私は**恋人**に泣かれた。)

(54) c. Tôi bị cảnh sát đến nhà.

(私は**警察官**にうちに来られた。)

(55) c. Tôi bị người hàng xóm hát karaoke.

(私は**近所の人**にカラオケを歌われた。)

そうすると、文が自然になり、許容される。

(53b) では泣くのは妹であり、子供ということで、泣く行為は自発現象と認められてしまう。非意志的な行為は人間がコントロールできないため、被害を受けても仕方がないという解釈になるため、“bị”受動文で表現しづらい。しかし、(53c) では泣く主体は子供ではなく恋人 (大人) である。つまり、「自然にそうなる」わけではなく、どちらかという意志を持つ行為であるため、“bị”受動文が成り立つ。

また、ここでは、久野 (1983 : 205) の「被害受身の意味」に触れる。

被害受身の意味 「ニ」受身文深層構造の主文主語が、埋め込み文によって表される行為・心理状態に直接にインヴォルブされていなければならない程、受身文は、中立受身として解釈し易く、そのインヴォルブメントが少なければ少ない程、被害受身の解釈が強くなる。

(56) 山田は息子を先生に激賞された。

(56) では「息子」は家族の一員として、「山田」が直接にインヴォルブされている。つまり、中立受身の解釈になる。

この原則を用い、もう一度 (53) ~ (55) を観察すると、(b) の「妹」「友達」「弟」の方が (c) 「恋人」「警察」「近所の人」より受動主体が直接にインヴォルブされていることが分かる。つまり、インヴォルブメントが少ない (c) 「恋人」「警察」「近所の人」が被害の意味の解釈が強い。そのため、“bị”受動文が許容されるのである。

② 話し手の旧主語に対する捉え方

ここでは、ベトナム語の代名詞に注目したい。日本語の「彼奴」や「おまえ」などと同様、相手に親しみ・憤り・侮蔑などの気持ちを表すときに用いるものがある。“bị”受動文では、旧主語の行為が受動主体に迷惑をかけるため、旧主語のことを軽蔑する表現を用いることは珍しくない。

②-1. 代名詞

Mụ ta : おばん

Lão ta : おじん、おっさん

Thằng đó, gã đó : 彼奴 (男性)、野郎

Con đó : 彼奴 (女性)

②-2. 接頭辞が加えられた表現。軽蔑の言い方である。

Mụ + vợ (妻) : 妻

Lão + ăn mày (乞食) : 乞食 (男性)

Thằng + ranh con (子供) : ガキ

Gã + chồng (夫) : 夫

Con + em (妹) : 妹の奴

この語彙を用いると、“bị”受動文の許容度も高くなる。

(53) d. Tôi bị **con** em khóc.

(私は妹の奴に泣かれた。)

(55) d. Tôi bị **lão ta** hát karaoke.

(私はおじんにカラオケを歌われた。)

(57) a. ? Tôi bị người ngồi cạnh nói to.

私 PASS 隣の人 話す 大きい

(私は隣の人に大きい声で話された。)

b. Tôi bị **gã** ngồi cạnh nói to.

(私は彼奴に大きい声で話された。)

③ 副詞の挿入

谷守(1999)はベトナム語の受動文を考察する際、「無断で」「先に」を利用し、いくつかの例文を観察した。

(58) 私は友人に車を無断で売られた。

Tôi bị bạn tùy tiện bán xe.
私 PASS 友達 無断で 売る 車

(59) 兎は亀に先に山を越えられた。

Thỏ bị rùa vượt qua núi trước.
兎 PASS 亀 超える 山 先に

谷守では言及されていないが、以上の副詞は状態副詞に属している。状態副詞とは動作・作用がどのような状態・様子であるかを詳しく表す副詞であり、主に動詞の文節を修飾する副詞である。つまり、状態副詞を通じて、被害の意味も明確にすることができる。特に、予想外の物事が前触れもなく起こるさまを表す「突然」「急に」「いきなり」「不意に」が効果的である。

(60) Em đó đột nhiên bị bố qua đời.

あの子 突然 PASS 父 死ぬ

(あの子は突然お父さんに死なれた。)

(61) Chủ cửa hàng đột nhiên bị nhân viên nghỉ.

店長 急に PASS 店員 休む

(店長は急に店員に休まれた。)

④ 「一てしまう」

一色(2011)は補助動詞「一てしまう」の主観的意味について「一掃」と「遺憾」を挙げる。

(62) ベッドを片付けてしまった。(一掃)

(63) 要らないものを買ってしまった。(遺憾)

「遺憾」は「動作主体が意志を持って行為を行い、あるいはコントロール不可能な状況下で行為を行い、その結果話し手が残念な気持ちになること」を表す。

では、ベトナム語の「一てしまう」に対応する“mất”の「遺憾」用法で“bị”受動文が成立するかどうかを見る。

(51) d. Tôi bị bạn gái chuyển nhà mất.

私 PASS 彼女 引っ越す 一てしまう

(私は彼女に引っ越されてしまった。)

(52) d. Tôi bị người mình thích chuyển trường mất.

私 PASS 好きな人 転校する 一てしまう

(私は好きな人に転校されてしまった。)

(61') Chủ cửa hàng bị nhân viên nghỉ mất.

店長 PASS 店員 休む 一てしまう

(店長は店員に休まれてしまった。)

いずれも“mát”（一てしまう）を加えると、文の許容度が高くなる。動作主の行為を受け、受動主体が「後悔・残念」の気持ちを持つことを反映するため、“bị”受動文の被害の意味が明確に表示される。

6. まとめ

本稿では日本語の受動文とベトナム語の“bị”受動文との比較・対照を行った。

まず、日本語の直接受動文と異なり、ベトナム語の“bị”受動文は常に被害の意味を表すため、「褒める」「助ける」のような「利益を得る」動詞と共起しない。降格受動文及び「創る」類の動詞の受動文に対応する“bị”受動文も存在しない。動詞が被害の意味を持つのは重要であり、受動主体が人間の場合は、その主体が被害を受ける対象である。一方、受動主体が非情物の場合は、潜在的受影者がいるか否かが“bị”受動文が成立する要因となる。「見る」などの中立的な意味を持つ動詞であっても、文脈により受動主体が出来事から被害・迷惑を受ける意味が成立すれば、“bị”受動文で表現できるようになる。

次に、日本語の所有受動文を受動主体と目的語の関係に基づいて、所有物（具体物及び抽象物）、身体部位と親族関係のように3つ分けた。目的語が所有物と身体部位の場合、日本語においてもベトナム語においても受動文が成立する。親族関係の場合は、対応する“bị”受動文が存在しない。なぜなら、動作対象その本人が直接に影響を受けると認められ、直接受動文の構文が用いられる。

最後に、日本語の間接受動文と“bị”受動文を考察した。しばしば“bị”受動文は常に被害・迷惑の意味を表すと指摘されているが、完全には日本語の間接受動文と対応しない。“bị”受動文は自動詞・他動詞の間接受動文に対応するが、具体的・明確に被害の意味が読み取れないと、成り立たない。それゆえ、かなり自由に間接受動文が成り立つ日本語と比べ、“bị”受動文では、受動主体が被害を被る意味を出すために、旧主語との関係を示したり、副詞を挿入したりしなければならない。

但し、日本語の間接受動文とベトナム語の“bị”受動文において「被害」のあり方に関して更に分析する必要があると考えられ、今後の課題とする。

【参考文献】

- 一色舞子(2011)「日本語の補助動詞「-てしまう」の文法化:主観化、間主観化を中心に」
『日本研究』15, 高麗大学日本研究センター, pp.201-221
- 奥津敬一郎(1983)「何故受身か?—〈視点〉からのケース・スタディー」『国語学』132,
pp.65-80
- 久野暲(1983)『新日本文法研究』大修館書店
- 柴谷方良(2000)「ヴォイス」、仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人『日本語の文法1 文の骨格』, 岩波書店, pp.119-186
- 杉本武(2007)『現代日本語の受動文と格の研究』, 博士学位論文, 筑波大学
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 高見健一(2011)『受身と使役—その意味規則を探る—』開拓社
- 谷守正寛(1999)「日本語・タイ語・ベトナム語の受身対照比較:間接受身文を中心に」

- 『鳥取大学教育地域科学部紀要. 教育・人文科学』1-1, 鳥取大学教育地域科学部, pp.293-302
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第1巻』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法2』くろしお出版
- 益岡隆志(1987)『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版
- 益岡隆志(1991)「受動表現と主題性」, 仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』, くろしお出版, pp.105-121
- 松下大三郎(1930=1978)『改撰標準日本文法』, 勉誠社
- 村上雄太郎(1997)「受け身と利害の表現—日本語とベトナム語との対照を試みて」『神戸市外国語大学外国学研究』39, 神戸市外国語大学外国学研究所, pp.81-100

Howard, Irwin and Agnes Niyekawa-Howard (1976) “Passivization,” Shibatani Masayoshi (ed.) *Japanese Generative Grammar: Syntax and Semantics 5*, Academic Press, pp. 201-237

Kubo, Miori (1990) “Japanese Passives,” ms. MIT

Diệp Quang Ban (2005) “Ngữ pháp tiếng Việt (tập I, II)”, Nhà xuất bản Giáo dục (ジエップ・クアン・バン (2005) 『ベトナム語の文法I,II』教育出版)

Nguyễn Hồng Cẩn (2003) “ Cấu trúc cú pháp của câu tiếng Việt”, Nhà xuất bản Giáo dục (グエン・ホン・コン (2003) 『ベトナム語の文の構造』教育出版)

Phạm Thị Thu Hà (2002) 『日本語とベトナム語の受身表現』ハノイ国家大学出版